



2025年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2024年8月14日

上場会社名 株式会社グローバルウェイ 上場取引所 東
コード番号 3936 URL <https://www.globalway.co.jp>
代表者 (役職名) 代表取締役社長兼CEO (氏名) 小山 義一
問合せ先責任者 (役職名) 取締役CFO兼CISO (氏名) 伊藤 享弘 TEL 03(5441)7193
配当支払開始予定日 -
決算補足説明資料作成の有無 : 有
決算説明会開催の有無 : 有

(百万円未満切捨て)

1. 2025年3月期第1四半期の連結業績(2024年4月1日~2024年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年3月期第1四半期	624	2.2	△223	-	△216	-	△156	-
2024年3月期第1四半期	610	37.4	△45	-	△8	-	40	-

(注) 包括利益 2025年3月期第1四半期 △245百万円(-%) 2024年3月期第1四半期 0百万円(-%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2025年3月期第1四半期	△4.31	-
2024年3月期第1四半期	1.10	1.10

(注) 2025年3月期第1四半期の「潜在株式調整後1株当たり当期純利益」については、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期純損失であるため記載していません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2025年3月期第1四半期	1,718	1,236	51.0
2024年3月期	1,948	1,481	53.4

(参考) 自己資本 2025年3月期第1四半期 876百万円 2024年3月期 1,041百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年3月期	-	0.00	-	0.00	0.00
2025年3月期	-	-	-	-	-
2025年3月期(予想)	-	0.00	-	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2025年3月期の連結業績予想(2024年4月1日~2025年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	3,010	22.6	△93	-	△42	-	57	-	1.58

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更：無
新規 一社 (社名)、除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は、添付資料P7「四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(会計方針の変更)」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

2025年3月期1Q	36,425,650株	2024年3月期	36,416,650株
2025年3月期1Q	4,260株	2024年3月期	4,260株
2025年3月期1Q	36,414,862株	2024年3月期1Q	36,398,940株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想の利用にあたっての注意事項等については添付資料「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(決算説明資料の入手方法)

決算説明資料は2024年8月14日(水)に当社ウェブサイトに掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益及び包括利益計算書	6
第1四半期連結累計期間	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(会計方針の変更)	7
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	7
(セグメント情報等の注記)	8
(重要な後発事象)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当社グループを取り巻く環境は、将来にわたる競争力の強化を目的として、クラウドやビッグデータの活用とIoT・AIなどの新技術を活用した事業のデジタル化関連のシステム投資は堅調に推移しており、2030年度のデジタルトランスフォーメーション(DX)国内市場(投資金額)は約8.0兆円となることが予測され(富士キメラ総研)、一方で、企業がDXを進める上での課題として「人材不足」が41.7%、「知識不足」が30.7%となっております(総務省)。企業の採用ニーズは回復傾向にあり、また、働き方改革の進展やオンラインを通じた副業を含むシェアリングビジネスへの需要は引き続き拡大傾向となっております。

このような環境の中、当社は「“人”と“技術”を新しい時代のために」を経営理念とし、「人々や企業から最も信頼される存在を目指して」をビジョンとして、人々の幸せや企業の成長をあらゆる技術の追求により最大限実現し、新しい時代において、最も信頼される存在を目指しております。

当連結会計年度において、当社グループは、引き続き、プラットフォーム事業及びセールスフォース事業では、クライアントの積極的なシステム投資やDX化を支援すると同時に、エンジニアの採用や育成によるケイパビリティ拡大に取り組み、メディア事業では、送客数の増加や送客先の新規開拓、人材紹介会社などに対する支援の拡大に取り組み、リクルーティング事業では、キャリアコンサルタントの採用や求人企業・転職希望者の両面に対するコンサルティングサービスの強化に取り組みました。

シェアリング事業を行う株式会社タイムチケットは、個人が個人に対してスキルを販売するマッチングプラットフォームを展開するスキルシェア事業、経営課題の解決を支援するコンサルティング事業、TikTok代理店活動などを行うライブエンターテイメント事業を行っております。また、2022年7月に調達した資金の一部を基にした中期的な株式投資を行う投資活動を行っております。なお、法人と個人間で個人の時間を販売できるサービスを展開する法人向けスキルシェア事業は、コンサルティング事業に集約させております。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の業績は、売上高は624,048千円(前年同四半期比2.2%増)、営業損失は223,389千円(前年同四半期は営業損失45,891千円)、経常損失は216,761千円(前年同四半期は経常損失8,955千円)、親会社株主に帰属する四半期純損失は156,976千円(前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純利益40,192千円)となりました。

当社グループのセグメントの業績は次のとおりであります。

① プラットフォーム事業

プラットフォーム事業では、法人向けに、各企業が保有する基幹業務システムを活かしつつ最適なクラウドソリューションを組み合わせ、新たなデジタルプラットフォーム(ELT、API、CI/CD、IOT、BI/BA)を構築し「プラットフォーム構築支援サービス」「運用サポートサービス」として提供しております。

クライアントのDX推進を支援する取り組みが受注に繋がり、同時にエンジニアの採用や育成によるケイパビリティ拡大に取り組んでおります。

当第1四半期連結累計期間においては、ケイパビリティの確保が堅調に進展し、クライアントのDX推進による案件増加をこなし、順調に推移しました。

以上の結果、プラットフォーム事業の売上高は245,692千円(前年同四半期比11.3%減)、セグメント利益は30,187千円(前年同四半期比67.7%減)となりました。

② セールスフォース事業

セールスフォース事業では、Salesforce.com社が提供するソリューション(Sales、Service、App Cloudの他、B2BCommerce、業種別クラウドなど)を用いて、主に顧客接点強化を目的として情報を一元管理し業務効率化を図るなどのサービスを提供することで各企業が抱える課題の解決を支援しております。製品の標準機能と開発をバランス良く組み合わせつつ、要件定義から設計、開発、運用・保守、定着化支援まで一貫して支援しております。

このような取り組みを通じ、パートナー契約および販売代理店契約による提案機会が向上し受注増加に繋がっており、同様にエンジニアの採用や育成によるケイパビリティ拡大やデリバリー体制の再構築に取り組んでおります。

当第1四半期連結累計期間においては、採用が進みケイパビリティの確保に目処が立ち始めていますが、前期に課題となったプロジェクトの収支管理の改善には至らず、デリバリー体制に課題が出始めております。

以上の結果、セールスフォース事業の売上高は93,044千円(前年同四半期比9.2%減)、セグメント損失は61,601千円(前年同四半期はセグメント利益27,292千円)となりました。

③ メディア事業

メディア事業は、企業の口コミ情報(企業の年収・評判・面接)、口コミ情報等を基にしたニュース記事(企業ニュース)、求人情報(転職・求人)等を取扱う働く人のための情報プラットフォーム「キャリコネ」を通じてワークプレイス・メディアサービスを運営し、また、人材紹介会社に対してソリューションを提供しております。

当第1四半期連結累計期間においては、継続的に、送客数の増加や送客先の新規開拓、人材紹介会社などに対する

支援の拡大に取り組む一方、Googleのコアアップデートへの対応に時間を要しております。

以上の結果、メディア事業の売上高は86,380千円（前年同四半期比22.0%減）、セグメント利益は12,780千円（前年同四半期比69.1%減）となりました。

④ リクルーティング事業

リクルーティング事業は、主にハイクラス人材をターゲットとし、外資系企業、コンサルティングファーム、IT業界を中心として、求人企業及び求職者の直接依頼に基づく有料職業紹介サービスを行っております。

クライアントのDX推進に伴いDX人材の採用ニーズも増加しており、当社は求人企業と転職希望者の両面へのコンサルティング力の向上を図っております。

当第1四半期連結累計期間においては、主要クライアントの採用縮小などにより計画を下回り、また、キャリアコンサルタントは増加したものの案件成約には一定期間かかることから人件費の回収には至らず、課題が残りました。

以上の結果、リクルーティング事業の売上高は83,398千円（前年同四半期比14.3%減）、セグメント利益は306千円（前年同四半期比98.1%減）となりました。

⑤ シェアリング事業

グループ会社である株式会社タイムチケットがシェアリング事業として、「TimeTicket(タイムチケット)」、「TikTok Live(代理店)」を運営し、経営課題の解決を行うコンサルティングサービス「CRiPTコンサルティング」を提供しております。

当第1四半期連結累計期間においては、「TimeTicket」のユーザー数増加及びサービス利用の活性化のためのシステム改修を行い、併せて、「TikTok Live(代理店)」におけるTikTokライバーの獲得や「CRiPTコンサルティング」におけるコンサルタントの獲得に注力いたしました。

以上の結果、シェアリング事業の売上高は127,850千円（前年同四半期比249.8%増）、セグメント損失は84,421千円（前年同四半期はセグメント損失105,613千円）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末における資産の合計は、前連結会計年度末に比べ229,485千円減少し、1,718,860千円となりました。これは主に売掛金及び契約資産の減少が147,775千円、現金及び預金の減少が125,602千円、その他流動資産の減少が34,616千円あった一方、仕掛品の増加が53,222千円、投資有価証券の増加が21,493千円あったことによるものであります。

当第1四半期連結会計期間末における負債の合計は、前連結会計年度末に比べ15,548千円増加し、482,649千円となりました。これは主に受注損失引当金の増加が39,529千円、買掛金の増加が30,095千円、前受金の増加が29,974千円あった一方、未払費用の減少が41,632千円、未払消費税等の減少が18,858千円、その他流動負債の減少が15,718千円あったことによるものであります。

当第1四半期連結会計期間末における純資産の合計は、前連結会計年度末に比べ245,034千円減少し、1,236,210千円となりました。これは主に利益剰余金の減少が156,976千円、非支配株主持分の減少が80,654千円あった一方、為替換算調整勘定の増加が1,492千円あったことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社グループを取り巻く環境は、DX市場においては、引き続きクライアントのDX推進に向けたシステム投資が見込まれる一方でDXを推進する企業の約半数がそれを担う人材不足を課題としており、人材市場においては、コロナ禍の影響で一時的に落ち込んだ人材紹介市場は回復傾向にあると同時に、フリーランスとして働く人口は増加しております。

そのような環境の中、プラットフォーム事業及びセールスフォース事業ではクライアントのDX推進を支援するとともにエンジニアの採用及び育成によるケイパビリティ拡大、デリバリー体制の整備に取り組み、メディア事業においては掲載企業数や企業研究レポートの増加を通じた媒体力の強化と同時に販売推進体制の整備に取り組み、リクルーティング事業においてはコンサルタントの採用を進め採用企業と転職希望者の両面へのコンサルティング力の強化に取り組んでおります。子会社で展開しているシェアリング事業においては、ユーザー数の獲得や利用活性化の蓋然性を図るためのマーケティングの実施やシステム改修などに取り組んでおります。

2025年3月期における連結業績予想は、2024年5月15日に「2024年3月期 決算短信」で公表した業績予想から変更しておりません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2024年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	917,487	791,884
売掛金及び契約資産	636,198	488,422
仕掛品	-	53,222
前払費用	77,350	74,151
その他	91,634	57,018
流動資産合計	1,722,670	1,464,699
固定資産		
投資その他の資産		
投資有価証券	174,880	196,373
長期前払費用	529	7,937
その他	50,264	49,850
投資その他の資産合計	225,674	254,160
固定資産合計	225,674	254,160
資産合計	1,948,345	1,718,860

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2024年6月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	88,202	118,297
短期借入金	30,000	30,000
1年内返済予定の長期借入金	14,456	14,456
未払費用	112,869	71,237
未払法人税等	2,292	629
未払消費税等	34,309	15,450
前受金	31,903	61,877
賞与引当金	5,298	3,238
受注損失引当金	-	39,529
その他	140,348	124,629
流動負債合計	459,679	479,345
固定負債		
長期借入金	6,640	3,304
繰延税金負債	781	-
固定負債合計	7,421	3,304
負債合計	467,101	482,649
純資産の部		
株主資本		
資本金	50,206	50,453
資本剰余金	1,496,215	1,496,463
利益剰余金	△516,651	△673,628
自己株式	△525	△525
株主資本合計	1,029,244	872,763
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	448	△8,942
為替換算調整勘定	11,522	13,015
その他の包括利益累計額合計	11,970	4,072
新株予約権	568	568
非支配株主持分	439,460	358,805
純資産合計	1,481,244	1,236,210
負債純資産合計	1,948,345	1,718,860

(2) 四半期連結損益及び包括利益計算書
(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)
売上高	610,834	624,048
売上原価	284,311	370,202
売上総利益	326,523	253,846
販売費及び一般管理費	372,414	477,235
営業損失(△)	△45,891	△223,389
営業外収益		
受取利息	0	1
受取配当金	420	448
投資有価証券売却益	28,022	10,789
その他	12,857	21
営業外収益合計	41,299	11,260
営業外費用		
支払利息	22	113
為替差損	977	4,446
暗号資産評価損	-	2
持分法による投資損失	3,360	69
その他	3	-
営業外費用合計	4,363	4,631
経常損失(△)	△8,955	△216,761
特別利益		
新株予約権戻入益	0	-
特別利益合計	0	-
税金等調整前四半期純損失(△)	△8,955	△216,761
法人税、住民税及び事業税	352	564
法人税等合計	352	564
四半期純損失(△)	△9,308	△217,325
(内訳)		
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	40,192	△156,976
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△49,500	△60,349
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	9,389	△32,405
為替換算調整勘定	835	4,132
持分法適用会社に対する持分相当額	55	69
その他の包括利益合計	10,280	△28,203
四半期包括利益	971	△245,529
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	39,672	△164,874
非支配株主に係る四半期包括利益	△38,700	△80,654

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」（企業会計基準第27号 2022年10月28日。以下「2022年改正会計基準」という。）等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用しております。

法人税等の計上区分（その他の包括利益に対する課税）に関する改正については、2022年改正会計基準第20-3項ただし書きに定める経過的な取扱い及び「税効果会計に係る会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第28号 2022年10月28日。以下「2022年改正適用指針」という。）第65-2項(2)ただし書きに定める経過的な取扱いに従っております。なお、当該会計方針の変更による四半期連結財務諸表への影響はありません。

また、連結会社間における子会社株式等の売却に伴い生じた売却損益を税務上繰り延べる場合の連結財務諸表における取扱いの見直しに関連する改正については、2022年改正適用指針を当第1四半期連結会計期間の期首から適用しております。当該会計方針の変更は、遡及適用され、前年四半期及び前連結会計年度については遡及適用後の四半期連結財務諸表及び連結財務諸表となっております。なお、当該会計方針の変更による前年四半期の四半期連結財務諸表及び前連結会計年度の連結財務諸表への影響はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費（のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。）は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)
減価償却費	2,378千円	-千円

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント						調整額 (注) 1	四半期連 結損益及 び包括利 益計算書 計上額 (注) 2
	プラット フォーム 事業	セールス フォース 事業	メディア 事業	リクルー ティング 事業	シェアリ ング事業	計		
売上高								
顧客との契約から生 じる収益	276,169	102,415	102,928	97,330	31,990	610,834	-	610,834
その他の収益	-	-	-	-	-	-	-	-
外部顧客への売上高	276,169	102,415	102,928	97,330	31,990	610,834	-	610,834
セグメント間の内部 売上高又は振替高	862	-	7,834	-	4,556	13,254	△13,254	-
計	277,032	102,415	110,762	97,330	36,547	624,089	△13,254	610,834
セグメント利益又は セグメント損失(△)	93,487	27,292	41,333	16,107	△105,613	72,607	△118,498	△45,891

(注) 1. セグメント利益又はセグメント損失(△)の調整額△118,498千円のうち△105,244千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又はセグメント損失(△)は、四半期連結損益及び包括利益計算書の営業損失と調整を行っております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。

II 当第1四半期連結累計期間（自 2024年4月1日 至 2024年6月30日）

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：千円)

	報告セグメント						調整額 (注) 1	四半期連 結損益及 び包括利 益計算書 計上額 (注) 2
	プラット フォーム 事業	セールス フォース 事業	メディア 事業	リクルー ティング 事業	シェアリ ング事業	計		
売上高								
顧客との契約から生 じる収益	245,120	93,044	84,034	82,417	119,431	624,048	-	624,048
その他の収益	-	-	-	-	-	-	-	-
外部顧客への売上高	245,120	93,044	84,034	82,417	119,431	624,048	-	624,048
セグメント間の内部 売上高又は振替高	572	-	2,346	981	8,419	12,318	△12,318	-
計	245,692	93,044	86,380	83,398	127,850	636,367	△12,318	624,048
セグメント利益又は セグメント損失 (△)	30,187	△61,601	12,780	306	△84,421	△102,747	△120,642	△223,389

(注) 1. セグメント利益又はセグメント損失 (△) の調整額△120,642千円のうち△108,324千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又はセグメント損失 (△) は、四半期連結損益及び包括利益計算書の営業損失と調整を行っております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。